

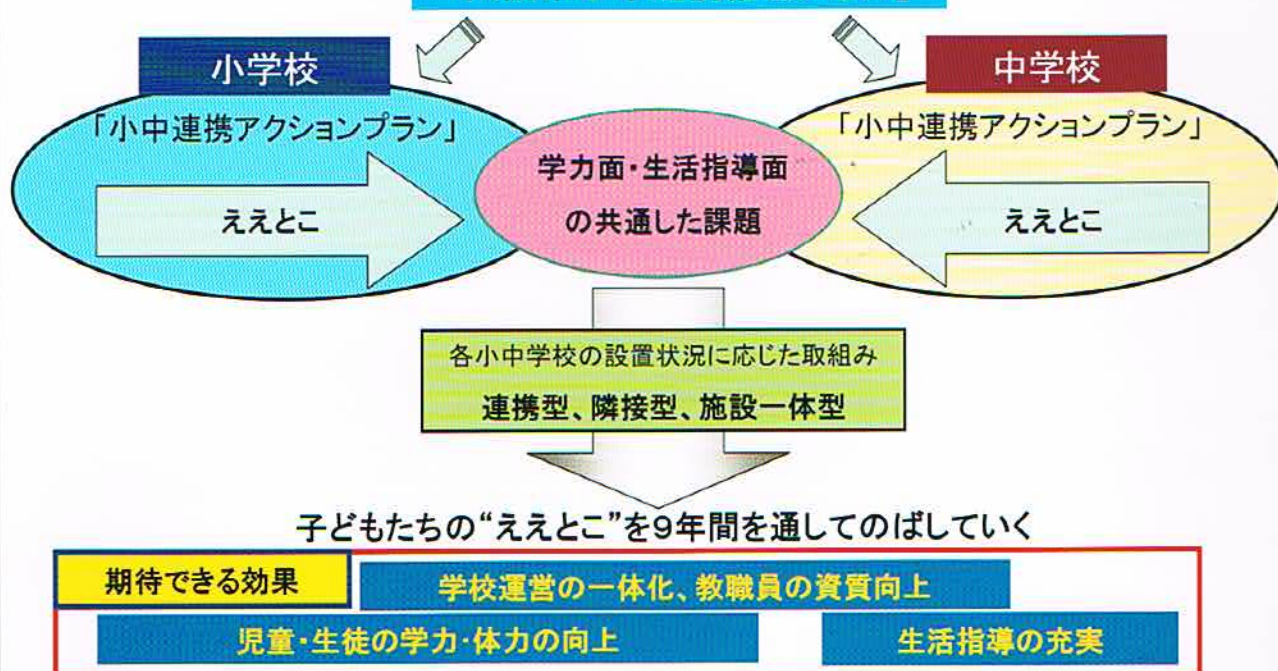
平成23年度より、すべての小・中学校で

小中一貫した教育を実施します

—『連携(つながり)』から『連携(同じ目的を持ったつながり)』へ—

本市の小中一貫した教育の概要

「大阪市小中連携推進プラン」



○ 小中学校の円滑な接続が、中学入学後の学習面でのつまずきや対人関係のつまずき（いわゆる中1ギャップ）の解消に効果があります。また、平成19年度から「小中連携パイロット校調査研究事業」を実施しました。その結果、小中連携を推進することが、中学校生活への、子どもの期待感の高まり、学習意欲の向上にも効果が見られました。

また、子どもたちに「生きる力」を身につけさせるためには、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を義務教育9年間を通して総合的にバランスよく育むことが、必要であると考え、すべての小・中学校で「大阪市小中連携推進プラン」に則り、これら3つの観点について「小中連携アクションプラン」を作成し、取組みを進めていくこととしました。

小学校と中学校がお互いの“ええとこ”を認め合い、共通理解を深め、課題の解決のために協働して取り組むことで、子どもたちの“ええとこ”を9年間を通してのばしていきましょう。

大阪市教育局委員会

(平成23年5月)

小中一貫した教育 Q&A

Q：小中連携と小中一貫した教育は、何が違うのですか。

A：本市では、これまでも、生活指導連絡会や部活動体験など、学校の状況や地域の特性に応じて「小中連携」した取り組みが行われてきました。これまでは小学校6年間と中学校3年間を連携するという考え方でしたが、これからは義務教育9年間をひとつくりにし、その中の小学校6年間、中学校3年間という考え方で教育活動に取り組みます。今年度より、すべての小学校と中学校が、9年間を見通し、学習指導要領に準拠した教育課程を編成し、同じ目的を持ち、義務教育をひとまとまりとした「小中一貫した教育」を創造します。

Q：中学校区に小学校が複数ある場合、1小1中と違い、小中一貫した教育の推進が難しいのではないですか。

A：小学校間のいわゆる「小・小連携」が重要になってきます。中学校との連携だけでなく、小学校ごとの特色を保ちながら、小学校間で教育目標を共有するなど積極的に取り組む事が、よりスムーズな連携のためには必要になります。また、出前授業等の取り組みの回数などは、中学校区の小学校数により、違いはあるでしょうが、小学校ごとに教科を固定するなど状況に応じた工夫で解消することができるのではないのでしょうか。

Q：小中一貫した教育を推進するためには、どのようなことを心がければよいのでしょうか。

A：まずは、学校や地域の実情に応じた行事等を通して教職員や児童生徒の交流を促進することです。教職員や子ども達が知り合うことで意識も変わります。しかし、行事やイベントを単発的に行うことが小中一貫した教育の目的ではありません。子どもたちの日々の学校生活をより豊かなものにするために、共通の目標を設定し、授業内容や生活指導などで一貫性・継続性のある教育を実施していきます。また、小学校から中学校へのスムーズな接続だけでなく、各学年、各校種で取り組みを完結させず、すべての学年において一貫性・継続性を意識することが大切です。

Q：「中1ギャップ」の解消のために、小中一貫した教育を実施するのですか。

A：小中一貫した教育は、「中1ギャップ」の解消のためだけに実施するものではありません。授業の改善や生活指導体制の見直しなどを通して、子どもたちの学校生活を豊かにし、確かな学力・豊かな心・健やかな体を育むために、小中一貫した教育に取り組むのです。その結果として「中1ギャップ」も解消していくと考えます。

Q：さまざまな取り組みに加えて、小中一貫した教育を実施するには、時間的にも人的にも余裕がないと思うのですが。

A：取り組みを増やすことばかり考えるのではなく、今まで行っていた取り組み（学習指導、生活指導、キャリア教育等）を9年間を見通した「小中一貫」という観点で見直してみてもよいでしょうか。そして、小・中学校が協働して、新たに取り組みを整理することも小中一貫した教育の実施につながります。

小中一貫した教育内容の創造に向けて

小・中学校の共通課題である「言語活動の充実」をキーワードに！



- ① 思考力・判断力・表現力等をはぐくむためには、“言語活動の充実”が重要です。これは、小学校でも中学校でも進めていかねばならない新学習指導要領改訂のポイント！“言語活動の充実”をキーワードに、小・中学校がそれぞれどのような授業が行われているのか、相互に参観することから始めてみませんか！

こんなことから…

- ・小・中学校それぞれの教科書を理解する。
- ・小・中学校それぞれの学習指導要領や小学校・中学校教育課程編成要領を理解する。
- ・小中学校の教職員が相互に授業参観し、それぞれの授業の学習内容や指導方法の共通点・関連・差異点を見つけ、お互いのよさを取り入れてみる。

こんな場から…

「言語活動の充実を図る授業づくり研修会」を開催しています。

小学校・中学校共に全教科で10回程度開催していますので、互いに参観し、小学校、中学校教職員の意見交流の場としてください。

- ② 言葉の力を高めるためには、読書活動の推進が必要です。小学校・中学校が連携・情報交換しながら、学校図書館の整備・充実に向けて一緒に考えてみませんか！



こんなところから…

- ・小・中学校の学校図書館をお互いに見学する。
- ・小・中学校、それぞれの司書教諭及び学校図書館担当者が情報交換しながら、お互いのよさを取り入れ、整備をする。

各教科の特性を生かした言語力の育成

社会

調べ学習での報告文
事象の説明(解釈・論述)
資料の読み方(関連づけ
比較・批判等)

算数・数学

筋道を立てた思考・説明
(言葉・式・図・グラフ等を
活用)
帰納的・演繹的な考え方

理科

差異や共通点の記録・表現
条件や規則性に着目した説明
(イメージ図・グラフ等の活用)
結果の評価・まとめの表現
論述・討論

生活

体験したことを言葉
や絵等を使って表現
感想交流・意見交流

音楽

言語と音楽の関係性(歌
詞の内容や言葉の意味)
イメージや比喩を使って
表現する意見交流

図工・美術

感性や想像力を動か
せる表現・鑑賞
思いを語る・批評し合
う鑑賞活動

総合的な学習の時間

「問題意識」→「情報の取り出
し・収集」→「整理・分析・思考」
→「まとめ・表現」
体験活動の言語化

保健体育

協力して学び合う活動
コミュニケーション能力を育
成するための身体表現
健康課題に関する論述

外国語・英語

体験的な活動(コミュニ
ケーションアクティビティ)
言葉の仕組みの理解
ルールに基づく言語運用

技術家庭

実習結果を整理・考
察したり、課題解決の
ために図表等を用い
て考え、説明したりす
る活動

道徳

心情・判断等の表現力を
高めるための「書く活動」
倫理的諸価値を用いて
様々な課題について討論

特別活動

話し合い活動
構成的グループエンカウンター
ソーシャルスキル・トレーニング
ピアサポート

小中9年間を見通した外国語活動(系統性のある英語教育)

外国語活動

英語

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極
的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語
の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション
能力の素地を養う。

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極
的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞
くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケー
ション能力の基礎を養う。

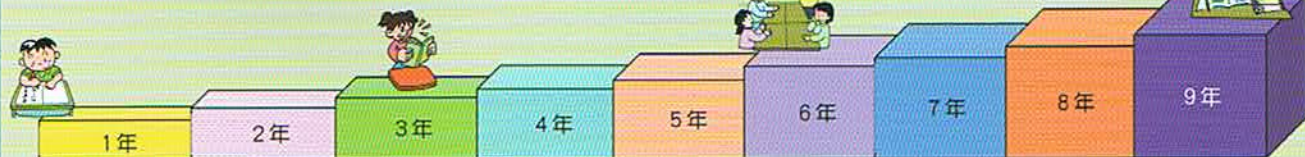
積極的に英語を聞いたり、話したりする。

英語の音声やリズムなどに慣れ親しむ。

英語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験する。

初歩的な英語を聞いたり、読んだりして、相
手の意向を理解する。

初歩的な英語を用いて自分の考えなどを
話したり、書いたりする。



児童生徒数

(平成24年4月1日予定)

やたなか小中一貫校	学級数	児童生徒数
小学校	8	205
中学校	4	105

日課表

小学校		中学校	
入室	8:10	入室	
朝 会	予鈴 8:25	予鈴	
	本鈴 8:30	本鈴	
	♪ 8:45 ♪		
1時限	8:50	1時限	
休み	♪ 9:35 ♪	休み	
	♪ 9:45 ♪		
	9:50		
2時限		2時限	
休み	♪ 10:35 ♪	休み	
	♪ 10:45 ♪		
	10:50		
3時限		3時限	
休み	♪ 11:35 ♪	休み	
	♪ 11:45 ♪		
	11:50		
4時限		4時限	
給食	♪ 12:35 ♪	昼食	
	♪ 13:00 ♪		
昼休み	♪ 13:15 ♪	昼休み	
	♪ 13:25 ♪		
清掃	予鈴 13:40	清掃	
やたななタイム	♪ 13:45 ♪	授業準備	
	13:50		
5時限		5時限	
休み	♪ 14:35 ♪	休み	
	♪ 14:45 ♪		
	14:50		
6時限		6時限	
	♪ 15:35 ♪		
	15:45 ♪	学活	

学校運営組織

